公開用

環境経営レポート

活動期間　2025 年 4 月～2026 年 3 月

作成日　2026 年 6 月 12 日

認証番号 0012052

株式会社亀田清掃

公開用

目　　次

1. 組織の概要 …… 1
対象範囲 …… 1
組織図 …… 2
環境経営実行組織の役割、責任及び権限 …… 2
2. 環境経営方針 …… 4
3. 事業の概要 …… 5
許可内容 …… 5
処理能力 …… 6
処理工程図 …… 8
処理実績 …… 10
4. 環境経営目標 …… 12
5. 環境経営目標／実施計画一覧表、取組の評価 …… 13
6. 取組の結果及び次年度取組 …… 14
7. 環境関連法規等の順守状況の確認及び
評価の結果並びに違反、訴訟等の有無 …… 14
8. マネジメントレビューの結果 …… 15

公開用

1. 組織の概要

事業所名　株式会社亀田清掃
代表者　代表取締役　池田　善徳
所在地　函館市赤川町９０番地の４
設立年月日　昭和４６年９月３日
資本金　１，００８万円
従業員数　１０４名
売上高　１１６，６３３万円（うち対象範囲売上高８８，９４９万円）
（２０２６年3月期）

建物敷地	本社	建物	４９５㎡	敷地	８，４１８㎡
	函館汚泥脱水処理センター	建物	７５９㎡	敷地	４６，３８５㎡
	亀田清掃リサイクルセンター	建物	６６３㎡	敷地	９，７８０㎡

【 対象範囲 】

事業所	住　所	従業員数
本社	函館市赤川町９０番地の４	４４名
函館汚泥脱水処理センター	函館市東山町１２１番地の５	２名
亀田清掃リサイクルセンター	函館市東山町１２１番地２０	１２名

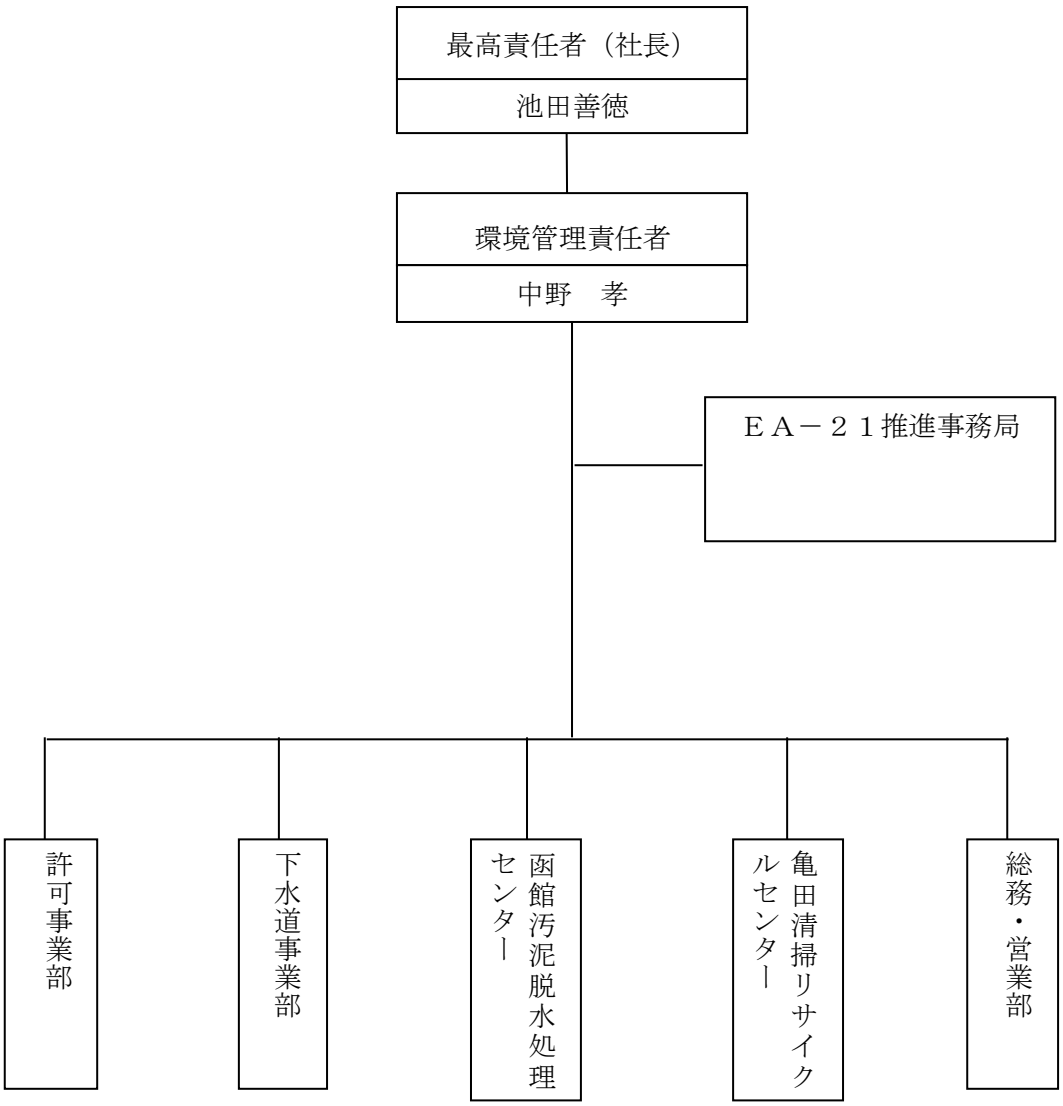
【 対象活動の内容】

詳細内容
一般廃棄物・産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の収集運搬業 産業廃棄物中間処理業 浄化槽清掃並びに維持管理業務 下水道管洗浄作業 管渠止水更生工事業務

環境管理責任者　中野　孝（取締役施設管理部長）
担当者　古館　ひで子
連絡先　Tel　(0138)４６－３２６３　　Fax　(0138)４７－５６８９

公開用

組織図



※　各部署に環境推進委員(部署長)を置く

環境経営実行組織の役割、責任及び権限

(1) 社長（代表者）の役割
① 環境経営方針を決定する。
② 環境管理責任者を任命し、他の責任にかかわりなく環境マネジメントシステムの確立、実施と維持並びに見直し、改善の基礎として環境マネジメントシステムの実績報告にかかわる役割、責任及び権限を与える。
③ 環境マネジメントシステムの管理実行にあたり、必要な経営資源(人的資源、専門的な技能、インフラストラクチャー、技術並びに資金)を確保する。
④ 少なくとも１年に１回定期的に環境マネジメントシステムのレビューを行う。

(2) 環境管理責任者の役割
ＥＡ－２１の要求事項に適合したシステムを構築し、実施し、かつ維持されることを確実にすること

① 環境マネジメントマニュアル及び関連文書等の作成及び見直しをする。
② マネジメントレビューのための情報として、その構築・実施に関する情報を社長に提供する
③ 利害関係者からの苦情、要望等の処理と連絡
④ 法的及びその他の要求事項の集約及び登録を行い、承認する。
⑤ 当社全体の環境経営目標の素案(変更等の素案を含む)・及び実施計画を集約し、社長の承認を得る。
⑥ 部署別の環境経営目標、実施計画(部署環境管理改善計画書／報告書)を承認する。
⑦ コミュニケーションによる情報を集約保存し、必要に応じて各部署責任者及び社長と協議する
⑧ 環境関連事故及び緊急事態発生の報告を受けたときは対応の総指揮をとり、その概要を社長に報告する。
⑨ 監視測定結果の集計表を作成し、社長に報告する。
⑩ 環境経営目標並びに法規制及びその他の要求事項との不適合の是正処置の概要について、社長に報告する。
⑪ 不適合是正処置の結果、必要に応じて環境マネジメントシステムの見直しを実施し、社長に提案する。
⑫ 環境経営レポートの作成と公表

(3) 各部署の責任者(環境推進委員)の役割等は以下のとおりとする。
部署責任者は、適任者を環境管理責任者が推薦し、社長が任命する。
① 自己の管理範囲内における実施責任者として、全員参加による環境経営システムの実施及び管理に責務を負い、部門内の必要な人材育成、パフオーマンスの向上を図る
② 全体の環境経営目標を達成するために部署の「部署環境管理改善計画書／報告書」を作成し、環境管理責任者の承認を得る。
③ 「部署環境管理改善計画書／報告書」にて実施結果の内容、評価を確認し、環境管理責任者に3か月ごとに記録を提出する。
④ 社外のコミュニケーションの受理及び回答処理を行い、コミュニケーション情報記録を環境管理責任者に提出する。
⑤ 自部署に係わる委託業務について、必要に応じて関連委託業者に運用手順を伝達する。
⑥ 環境関連事故及び緊急事態発生時には、対応責任者として処置を行い「緊急事態発生報告書」を環境管理責任者に提出する。
⑦ 部署において実施可能な場合は緊急事態対応計画の定期訓練を行い、実績を記録し、環境管理責任者に記録書を提出する。
⑧ 監視・測定手順書を作成する。
⑨ 監視及び測定の結果を記録し、定期的に環境管理責任者に記録書を提出する。
⑩ 不適合が生じた又は予測された場合には、原因を調査特定し是正及び予防処置を行い記録し、所属の長等の承認を受け環境管理責任者に提出する。

(5) ＥＡ－２１推進事務局
ＥＡ－２１推進事務局を置く。その役割は、以下のとおりとする。
① 環境管理責任者に関わる事務及び業務補佐を行う。
② その他環境マネジメントシステムの管理運営に関わる事務を行う。
③ 法的及びその他の要求事項の遵守評価を行う。
④ 常に環境関連法令の制改廃の把握に努め、「環境関連法規制及びその他の要求事項登録表兼順守状況確認書」の登録、変更が必要なときは、最新情報を環境管理責任者へ「環境関連法規制及びその他の要求事項登録表兼順守状況確認書」を提出する。
⑤ 環境教育計画を作成し実施する。

公開用

2. 環境経営方針

環境経営方針

基 本 理 念

株式会社亀田清掃は、都市生活の空間の中で人々に限りない潤いをもたらせる 「美しい水や緑とのふれあい」 をいつまでも守っていくための支えになることを念頭に、廃棄物処理に携わる企業として地域社会はもちろん地球全体の環境負荷低減が事業活動の使命と自覚し 「環境保全と持続可能な社会の実現に貢献する」 ことを基本理念とします。

環境経営方針

株式会社亀田清掃は、一般廃棄物・産業廃棄物収集運搬業務並びに産業廃棄物中間処理業務が主体であることを踏まえて、以下の原則を履行し環境管理活動を行います。

1. 本社事務所及び亀田清掃リサイクルセンター・函館汚泥脱水処理センターの事業活動が環境に与える影響を考慮し、環境汚染の予防に努めると共に環境経営マネジメントシステムの継続的改善を図ります。

2. 環境経営目標を設定し、社員ひとりひとりが自覚を持って活動に取り組みます。また、環境経営目標は経営における課題とチャンスの変化を捉え定期的に見直しを行います。

3. 当社の事業活動に関わる法規制並びに当社が同意するその他の要求事項を順守すると共に、自らの責任において社会の期待を考慮した行動に努めます。

4. 当社の事業活動において省資源・省エネルギーを推進し、自然エネルギーの有効活用を行い ます。また、産業廃棄物の中間処理業務においては選別作業の徹底を図り、リサイクル率の向上に努めます。

5. 全社員が環境経営方針を理解し行動ができるように周知徹底を図り、環境管理活動に努めます。

この環境経営方針は、社外一般の求めに応じて公開します。

2021年 4月 1日
株式会社 亀田清掃
代表取締役 池田 善徳

公開用

3. 事業の概要

許可内容

許可内容	許可者	許可年月日	許可の有効年月日	許可番号	事業の範囲
産業廃棄物収集運搬業（優良）	北海道	令和7年3月11日	令和14年3月11日	00100007685	燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、動物系固形不要物、ゴムくず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、鉱さい、がれき類、動物のふん尿、動物の死体、ばいじん、産業廃棄物を処分するために処理したもの。以上、石綿含有産業廃棄物であるもの、水銀使用製品産業廃棄物であるものを含み、燃え殻、汚泥、廃酸、廃アルカリ、鉱さい、ばいじんについては、水銀含有ばいじん等であるものを含む。積替保管なし。
特別管理産業廃棄物収集運搬業（優良）	北海道	令和4年9月10日	令和11年9月9日	00150007685	廃油（揮発油類、灯油類、軽油類）、廃酸（pH2.0以下のもの）、廃アルカリ（pH12.5以上のもの）、特定有害産業廃棄物（廃石綿他）
産業廃棄物処分業	函館市	令和6年2月10日	令和11年2月9日	05223007685	脱水（汚泥（無機性のものに限る。）） 固化（汚泥（無機性のものに限る。）） 破砕（廃プラスチック類、紙くず、木くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず（廃石膏ボードに限る。）） 選別（廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類） 圧縮（廃プラスチック類）
再生利用業個別指定証	函館市	令和8年4月1日	令和13年3月31日	18-1	
一般廃棄物処理業	函館市	令和8年4月1日	令和10年3月31日	1	
一般廃棄物処理業	北斗市	令和8年3月3日	令和10年3月31日	8-8	
一般廃棄物処理業	七飯町	令和8年3月25日	令和10年3月31日	12	
浄化槽清掃業	函館市	平成20年11月5日	無	2	
浄化槽清掃業	北斗市	令和8年3月3日	令和9年3月31日	8-2	
浄化槽清掃業	七飯町	令和8年3月25日	令和9年3月31日	2	
浄化槽保守点検業	北海道	令和6年12月6日	令和9年12月8日	60-39	
浄化槽保守点検業	函館市	令和3年9月13日	令和9年10月11日	2	
建設業	北海道	令和7年3月17日	令和12年4月13日	渡02669	
函館市企業局指定排水設備工事業者指定書	函館市企業局	令和6年4月1日	令和11年3月31日	令和6年度217	

公開用

処理能力

1）収集運搬車両

事業所	種　類		台数
赤川本社	ロードパッカー車	5．5 t	9台
	プレスパッカー車	5 t	3台
	プレスパッカー車	6 t	4台
	ダンプ車（クレーン付）	6 t	2台
	ダンプ車（クレーン付）	7 t	2台
	ダンプ車	4 t	2台
	キャブオーバー	2．5 t	1台
	キャブオーバー（クレーン付）	4 t	1台
	ダンプ車（脱着装置付コンテナ専用車）	4 t	1台
	ダンプ車（脱着装置付コンテナ専用車クレーン付）	7 t	1台
	バキューム車	5．5 t	1台
	バキューム車	8 t	1台
	汚泥強力吸引車	5 t	1台
	汚泥強力吸引車	11 t	4台
	バン（乗用）		2台
函館汚泥脱水処理センター	ダンプ車	10 t	1台
	バックホー	0．7㎥	1台
	ショベル・ローダ	10 t	1台
亀田清掃リサイクルセンター	ダンプ車	11 t	2台
	ダンプ車（脱着装置付コンテナ専用車）	10 t	1台
	ミニホイルローダ	0．6㎥	1台
	ホイルローダ	1．9㎥	1台
	ミニバックホー	0．2㎥	2台
	フォークリフト		1台

公開用

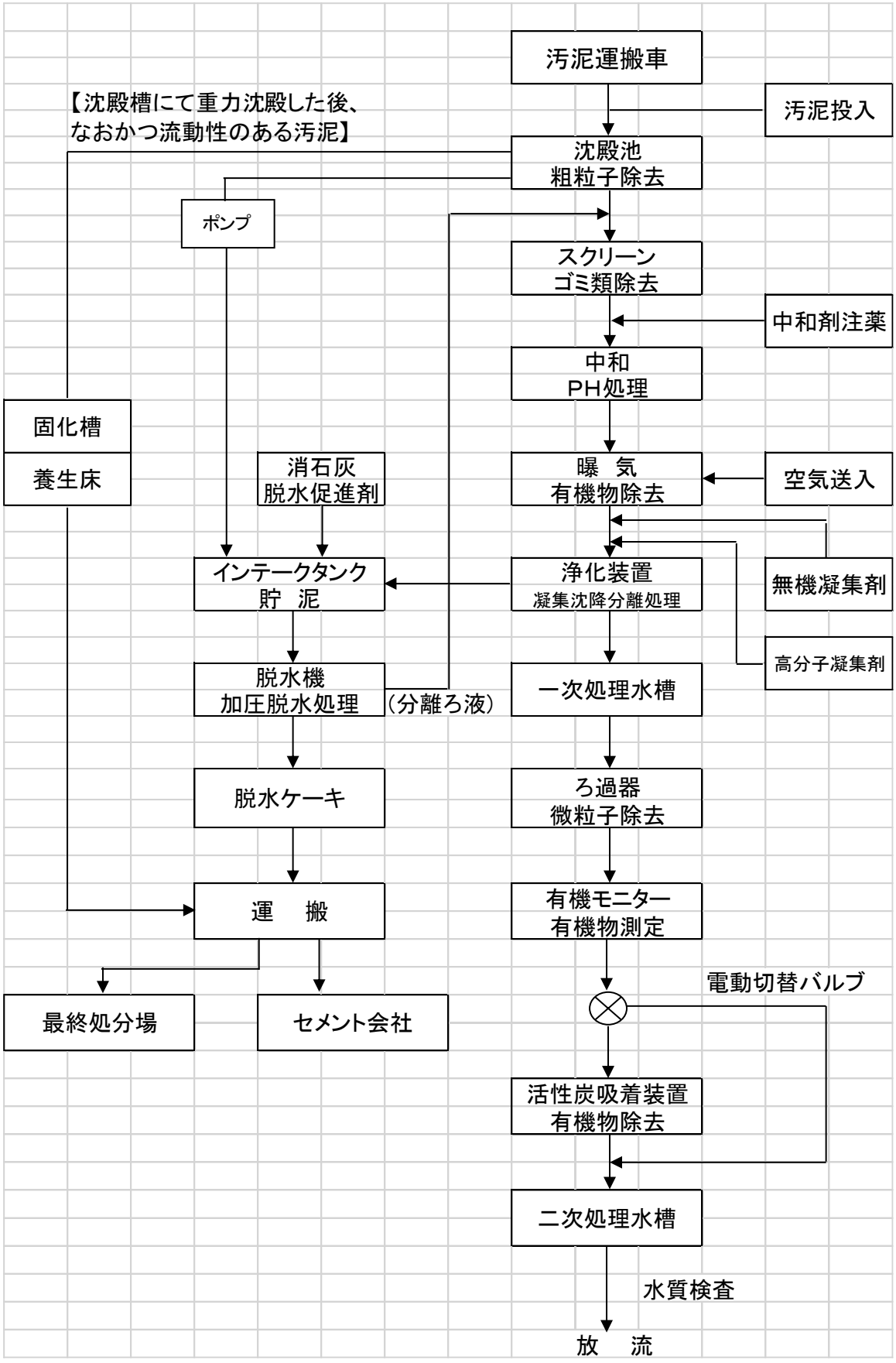
2） 中間処理施設

	施設の種類	処分方法	設置場所	処理能力
施設1	汚泥（無機性のものに限る）の脱水施設	脱水	函館市東山町 121 番 5･40 の内	46 ㎥／日(8 時間) 5.75 ㎥／時間
施設2	汚泥（無機性のものに限る）の固化施設	固化	函館市東山町 121 番 5･40 の内	41.28 ㎥／日
施設3	廃プラスチック類、紙くず、木くずの破砕施設（廃プラスチック類、木くず）	破砕	函館市東山町 121 番 20 の内	8.2t／日(8 時間) 1.025t／時間
	廃プラスチック類、紙くず、木くずの破砕施設（紙くず）	破砕	函館市東山町 121 番 20 の内	6.1t／日(8 時間) 0.762t／時間
施設4	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず（廃石膏ボードに限る）の破砕施設	破砕	函館市東山町 121 番 20 の内	4.8t／日(8 時間) 0.6t／時間
施設5	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類の選別施設	選別	函館市東山町 121 番 20 の内	161 ㎥／日(7 時間) 23 ㎥／時間
施設6	廃プラスチック類の圧縮施設	圧縮	函館市東山町 121 番 20 の内	4.0t／日(8 時間) 0.5t／時間

	品名	保管場所面積	最大貯蔵数量
混合廃棄物保管場所	木くず 紙くず 廃プラスチック類 繊維くず 金属くず がれき類等	748.25 ㎡	935.32 ㎥
工場内 （処理後の保管含む）	木くず（破砕） 廃プラスチック類（圧縮） 石膏ボード（破砕）	574 ㎡	161.58 ㎥ 9 ㎥ 10 ㎥
木くず保管場所	木くず	679.74 ㎡	886.88 ㎥
分別･処理後の保管場所	廃プラスチック類 紙くず 金属くず等	233.17 ㎡ 70 ㎡ 139.99 ㎡	45.21 ㎥ 87.5 ㎥ 105 ㎥

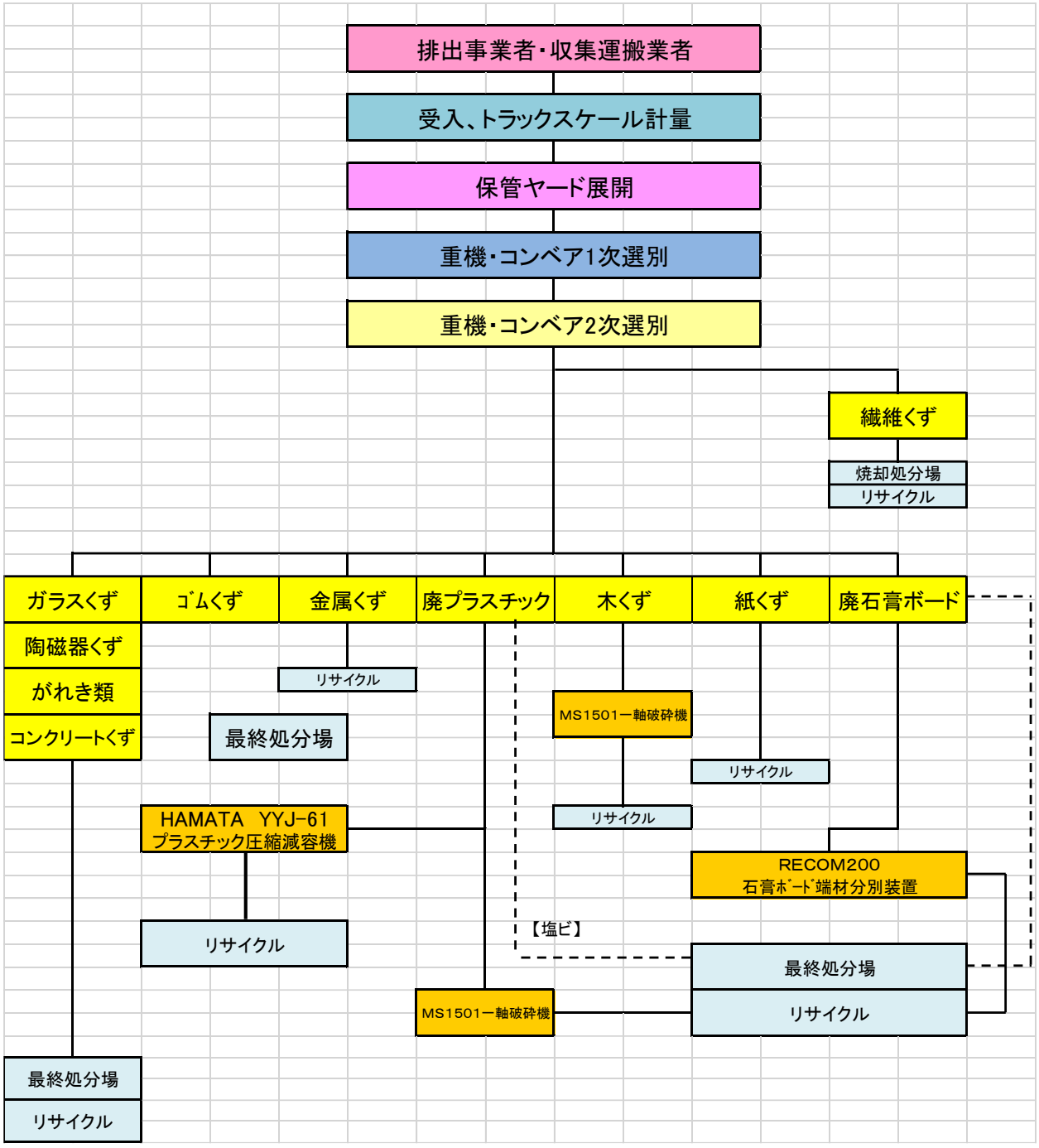
処理工程図

1） 函館汚泥脱水処理センター



公開用

2） 亀田清掃リサイクルセンター



処理実績

1）環境への負荷の状況

環境への負荷		単位	2023.4月～24.3月	2024.4月～25.3月	2025.4月～26.3月
二酸化炭素排出量		kg-CO_2	765152	766820	706499
受託、または受領した廃棄物、再生資源等の処理量等	産業廃棄物収集運搬量	t	18835	14859	11157
	産業廃棄物中間処理量	t	14047	13996	10041
	産業廃棄物中間処理後の処分量	t	11448	11025	7337
	最終処分量	t	2763	2790	2287
	再生資源量	t	8685	8234	5050
	一般廃棄物収集運搬量 事業系	t	8642	8583	8560
	家庭系	t	143	178	186
	し尿・汚泥	ℓ	2769229	2278280	2261100
産業廃棄物総排出量		t	6970	9764	7340
	中間処理量	t	3.35	7.80	3.40
	再生資源化量	t	8685	8235	5050
	最終処分（埋立）量	t	2763	2790	2287
一般廃棄物総排出量		t	1.01	1.03	0.90
	中間処理（焼却）量	t	0.57	0.58	0.54
	うち再生資源化量	t	0.39	0.44	0.36
	最終処分（埋立）量	t	0.02	0.01	0.01
総排水量	公共用水域	㎥	1039	1112	1304
	下水道	㎥	1307	1319	1139
水使用量	上水	㎥	2346	2431	2443
化学物質使用量	エチレングリコール（不凍液）	t			0.65
エネルギー使用量	購入電力	kwh	113713	104051	100597
	購入電力　CO2 排出量	kg-CO_2	60836	55355	52109
	化石燃料　CO2 排出量	kg-CO_2	708975	711465	654390
	新エネルギー（太陽光発電）	kwh	980	3918	3681
物質使用量	資源使用量	t	2634.71	3063.92	2695.36

※二酸化炭素排出係数(単位:kg-CO_2/kwh)　2023年度 0.532　2024年度 0.518

公開用

2）受託した産業廃棄物の処理量

廃棄物等種類			処分方法等	処理量(t) 2023年4月～24年3月	処理量(t) 2024年4月～25年3月	処理量(t) 2025年4月～26年3月
収集運搬		廃石綿等（特管）		5.38	0.15	
		廃油（特管）		0.89	2.95	1.78
		廃酸（特管）				
		強アルカリ（特管）			1.01	0.67
		混合廃棄物（石綿含有）			15.65	3.66
		プラ（石綿含有）		5.97	11.72	9.97
		ガラス・陶磁器くず（石綿含有）		19.90	15.31	16.26
		がれき類（石綿含有）		0.06	3.26	0.95
		金属くず（石綿含有）		0.31	0.14	3.72
		ボード（石綿含有）		0.19		
		紙くず（石綿含有）			2.78	0.02
		ガラス・陶磁器くず（水銀使用製品）		1.26	1.38	6.31
		燃え殻			2.76	0.62
		汚泥		14139.61	9650.20	5615.25
		廃油		13.24	27.58	9.96
		廃酸		84.65	137.75	215.57
		廃アルカリ		4.51	1.86	2.73
		廃プラスチック類		1086.46	1186.09	1163.10
		紙くず		25.47	17.50	5.92
		木くず		535.26	455.84	280.61
		動植物性残渣		16.75	41.80	43.55
		金属くず		139.35	137.77	61.56
		ガラス・陶磁器くず		252.59	213.66	139.10
		がれき類		396.34	564.89	1266.87
		混合廃棄物		2106.89	2368.10	2308.90
収集運搬量合計				13961.59	14859.15	11157.08
中間処理		汚泥	脱水・固化	9086.30	8899.79	5358.75
		廃プラスチック類	選別・圧縮・破砕	1276.47	1358.20	1013.77
		紙くず	選別	286.43	286.44	290.02
		木くず	選別・破砕	1284.60	1319.23	1505.34
		金属くず	選別	410.97	490.82	415.52
		ガラス・陶磁器くず	選別	1120.21	1153.24	1114.22
		がれき類	選別	8.11		
		廃石膏ボード	選別・破砕	573.96	488.95	344.08
	うち再資源化					
		再資源化等小計				
中間処理合計				11980.27	13996.67	10041.70
中間処理後の産業廃棄物	最終処分	汚泥	管理型埋立（委託）			
		廃プラスチック類	安定型埋立（委託）	1079.30	1152.43	824.97
		廃石膏ボード	管理型埋立（委託）	563.22	484.86	348.06
		ガラス・陶磁器くず	安定型埋立（委託）	1120.21	1153.24	1114.22
		がれき類	安定型埋立（委託）	0.35		
		最終処分小計		2763.08	2790.53	2287.25
	再資源化等	汚泥	焼成（委託）	6381.88	5891.92	2971.04
		廃プラスチック類	再生（委託）	186.01	217.44	182.95
		紙くず	再生・焼却(委託)	282.86	290.89	253.71
		木くず	燃料（委託）	1417.42	1341.98	1301.25
		金属くず	再生（委託）	409.58	492.27	341.10
		がれき類	再生（委託）	7.76		
		再資源化等小計		8685.51	8234.50	5050.05
中間処理後処分量合計				9761.19	11032.83	7337.30

公開用

4. 環境経営目標

環境経営目的	部署名（関連部署）	環境経営目標		
		2024 年度	2025 年度	2026 年度
軽油の使用による二酸化炭素排出量の削減（収集運搬車・バックホー・タイヤショベルの運転等）	許可事業部	2020～2022 年度の平均燃費 3.62 km/ℓを下回らない	2020～2022 年度の平均燃費 3.62 km/ℓを下回らない	2020～2022 年度の平均燃費 3.62 km/ℓを下回らない
	下水道事業部	2020～2022 年度の平均燃費 2.33 km/ℓを下回らない	2020～2022 年度の平均燃費 2.33 km/ℓを下回らない	2020～2022 年度の平均燃費 2.33 km/ℓを下回らない
	汚泥処理センター	2022～2023 年度の平均軽油使用実績 11661ℓを上回らない	2022～2023 年度の平均軽油使用実績 11661ℓを上回らない	2022～2023 年度の平均軽油使用実績 11661ℓを上回らない
	リサイクルセンター	2019 年度の軽油使用実績 42391ℓの 2%848ℓ削減 41543ℓ	2019 年度の軽油使用実績 42391ℓの 2%848ℓ削減 41543ℓ	2019 年度の軽油使用実績 42391ℓの 2%848ℓ削減 41543ℓ
灯油の使用による二酸化炭素排出量の削減（暖房機・温水ボイラー・洗車ボイラー等）	許可事業部 下水道事業部 総務・営業部	2023 年度の灯油使用実績 7962ℓの 1%79ℓ削減 7883ℓ	2023 年度の灯油使用実績 7962ℓの 1%79ℓ削減 7883ℓ	2023 年度の灯油使用実績 7962ℓの 1%79ℓ削減 7883ℓ
	汚泥処理センター	2019 年度の灯油使用実績 2298ℓの 1.5%34ℓ削減 2264ℓ	2019 年度の灯油使用実績 2298ℓの 1.5%34ℓ削減 2264ℓ	2019 年度の灯油使用実績 2298ℓの 1.5%34ℓ削減 2264ℓ
	リサイクルセンター	2019 年度の灯油使用実績 891ℓの 2%18ℓ削減 873ℓ	2019 年度の灯油使用実績 891ℓの 2%18ℓ削減 873ℓ	2019 年度の灯油使用実績 891ℓの 2%18ℓ削減 873ℓ
電気の使用による二酸化炭素排出量の削減（PC・コピー機・エアコン・照明等）	許可事業部 下水道事業部 総務・営業部	2020 年度の使用実績 14219kwh の 3%427kwh削減 13792kwh	2020 年度の使用実績 14219kwh の 3%427kwh削減 13792kwh	2023～2025 年度の平均使用実績 15345kwh を上回らない
水道水使用量の削減	許可事業部 下水道事業部 総務・営業部	2023 年度の使用実績 909 ㎥を上回らない（25 ㎜）	2023 年度の使用実績 909 ㎥を上回らない（25 ㎜）	2023 年度の使用実績 909 ㎥を上回らない（25 ㎜）
	下水道事業部	2023 年度の使用実績 1307 ㎥を上回らない（50 ㎜）	2023 年度の使用実績 1307 ㎥を上回らない（50 ㎜）	2023 年度の使用実績 1307 ㎥を上回らない（50 ㎜）
	リサイクルセンター	2019 年度の使用実績 152 ㎥を上回らない	2019 年度の使用実績 152 ㎥を上回らない	2019 年度の使用実績 152 ㎥を上回らない
受入混合廃棄物のリサイクル率の向上による最終処分廃棄物の削減	リサイクルセンター	リサイクル率平均実績 44.4%の 2.5% 1.1%向上 45.5%	リサイクル率平均実績 44.4%の 2.5% 1.1%向上 45.5%	リサイクル率平均実績 44.4%の 2.5% 1.1%向上 45.5%
固化剤添加率低減による使用量の削減	汚泥処理センター	固化剤添加率 0.11t/㎥を上回らない	固化剤添加率 0.11t/㎥を上回らない	固化剤添加率 0.11t/㎥を上回らない
不凍液使用量の把握による化学物質の適正管理	下水道事業部			不凍液使用量の把握
一般廃棄物の適正処理によるゴミ排出量の削減	許可事業部 下水道事業部	2020 年度の可燃物排出量 246.5 kgの 1.5%3.7 kg削減 242.8 kg	2020 年度の可燃物排出量 246.5 kgの 1.5%3.7 kg削減 242.8 kg	2020 年度の可燃物排出量 246.5 kgの 1.5%3.7 kg削減 242.8 kg
	総務・営業部	紙くずリサイクル率 2021～2023 年度の平均 54.5%の 0.5%向上 54.77%	紙くずリサイクル率 2021～2023 年度の平均 54.5%の 1%向上 55.05%	紙くずリサイクル率 2021～2023 年度の平均 54.5%の 1.5%向上 55.32%
	リサイクルセンター	2020 年度の可燃物排出量 134.1 kgの 2%3 kg削減 131.1 kg	2020 年度の可燃物排出量 134.1 kgの 2%3 kg削減 131.1 kg	2020 年度の可燃物排出量 134.1 kgの 2%3 kg削減 131.1 kg

公開用

5. 環境経営目標／実施計画一覧表、取組の評価

環境経営目的	環境経営目標（2025年度）	実施項目	評価 ◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった				
			許可	下水	総務	汚泥	リサ
軽油の使用による二酸化炭素排出量の削減	許可：2020～2022年度の平均燃費を下回らない 下水：2020～2022年度の平均燃費を下回らない 汚泥：2022～2023年度の平均軽油使用実績を上回らない リサ：2019年度の軽油使用実績の2%削減	アイドリングストップ	△	○	○	○	○
		経済速度での走行	◎	◎	◎	◎	◎
		無駄な荷物は積まない	◎	◎	◎	◎	◎
		無駄な空ぶかしをやめる	◎	◎	◎	◎	◎
		急発進・急加速・急ブレーキをやめる	◎	◎	◎	◎	◎
		暖気運転の短縮	○	○	○	○	○
		エアコンの使用を控えめにする	○	○	○	○	○
		車両整備	△	○	○	○	○
		早めのギヤチェンジ	○	○	○	○	○
灯油の使用による二酸化炭素排出量の削減	許可下水総務：2023年度の灯油使用実績の1%削減 汚泥：2019年度の灯油使用実績の1.5%削減 リサ：2019年度の灯油使用実績の2%削減	ボイラーの温度管理等の徹底	○	○		○	
		お湯の止め忘れ防止	○	○			
電気の使用による二酸化炭素排出量の削減	許可下水総務：2020年度の使用実績の3%削減	照明、空調の消し忘れ防止	◎	○	◎	○	○
		OA機器等の電源管理の徹底	◎	◎	◎	○	◎
		冷房の温度管理（28℃）		○	○		○
水道水使用量の削減	許可下水総務：2023年度の使用実績を上回らない リサ：2019 年度の使用実績を上回らない	洗濯時の水使用量管理	△	△			
		洗車、レンタル品清掃時の水使用量管理	△	△		○	○
受入混合廃棄物のリサイクル率の向上による埋立処分廃棄物の削減	リサイクル率平均実績の2.5%向上	混合廃棄物の分別作業の徹底					○
		選別作業責任者による選別状況の確認					○
固化剤添加率低減による使用量の削減	固化剤添加率 0.11t/㎥を上回らない	沈殿槽での沈殿時間の延伸による水切り作業				◎	
		固化剤の添加量を抑え養生時間の調査				◎	
		脱水可能汚泥の機械脱水による脱水の徹底				○	
		固化剤の添加量抑制のための小分け使用				○	
一般廃棄物の適正処理によるゴミ排出量の削減	2020 年度の可燃物排出量の削減（許下：1.5％リサ：2%） 総務：紙くずリサイクル率2021～2023 年度の平均の1%向上	分別の徹底	○	○	○		○
		喫食ゴミの適正排出	◎	◎	◎	○	◎
		紙くずのリサイクル排出	○	○	◎		○
		廃棄物管理票への記入	◎	◎	◎		◎

公開用

6. 取組の結果及び次年度取組

取組の結果	次年度取組
1. 軽油の使用による二酸化炭素排出量の削減 許可事業部、下水道事業部は未達成でした。汚泥センター、リサイクルセンターは目標達成しています。現場での張り付け作業が多くなったためだと思われます。	経営目標は、車両の入替、重機等の老朽化もあるため前年度と同様の目標値とします。スマートドライブの徹底に努め、目標達成できるように取り組みます。 2027年度は目標値の見直しを実施します。
2. 灯油の使用による二酸化炭素排出量の削減 全部署で目標達成しています。会社全体で年間855ℓ削減になりました。	経営目標は、給油の時期や外気温の変動によって変わるため、各部署ともに前年度と同じ目標で取り組みます。
3. 電力の使用による二酸化炭素排出量の削減 経営目標の達成率は93.6%で達成できませんでした。2階事務所の使用や設備の老朽化等が原因と思われます。	経営目標は、「2023～2025年度の平均使用実績を上回らない」に変更し取り組みます。
4. 水道水使用量の削減 本社建屋の使用量が目標を達成できませんでした。冬期の車両の解凍や洗車によるものと思われます。	経営目標は、洗車や洗濯、場内の散水の頻度に注意し、前年度と同じ目標値で達成できるように取り組みます。
5. 受入混合廃棄物のリサイクル率向上による埋立処分量の削減 木くずの搬入量の増大によりリサイクル率が向上し目標を達成できたが、金属くず、紙くずのリサイクル率が低迷しています。	経営目標は、前年度と同じ目標値とします。
6. 固化剤添加率の低減による使用量の削減 目標達成しています。	経営目標は、汚泥の種類によって変わるため、前年同様の目標で取り組みます。
7. 一般廃棄物の適正処理によるゴミ排出量の削減 全部署で目標達成しています。	経営目標は前年度と同じ目標で取り組みます。

7. 環境関連法規等の順守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

「環境関連法規制及びその他の要求事項登録表兼順守状況確認書」により、先ず各部署長が順守状況を確認・評価を行い、次に事務局が各部署長立会のもと、見直しを行った結果、環境関連法規に違反のないことを確認しました。また、外部からの訴訟もないことを確認しました。

主な適用法令	順守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	適正確認
浄化槽法	適正確認
浄化槽保守点検業者の登録に関する条例	適正確認
消防法（オイル、不凍液等の保管）	適正確認
水質汚濁防止法（灯油タンクからの漏洩）	適正確認
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化も関する法律	適正確認

公開用

8. マネジメントレビューの結果

実 施 日	２０２６年　５月２７日（水）	場　所	１F 詰所
出 席 者	社長、環境管理責任者、事務局、部署長		
社長による見直し事項及び指示	見 直 し 事 項	指 示 事 項 等	
	① 環境経営方針	現行での環境経営方針の運用を維持する。	
	②環境経営目標及び環境経営計画	現状にあった目標値に見直しをする。	
	③環境に関する実施体制	現状維持とする。	
社長による全体的な感想	おおむね達成しているが電力使用量及び水道使用量が未達成なので、原因及び目標値の見直しを検討してはどうか。		
事務局及び部署長対応	電力使用量については現状にあった目標値に変更し、今年度から取り組みます。また、不凍液使用量の把握を環境経営目標に登録し、化学物質の適正管理に今年度から取組みます。各事業部の目標値は 3 年目なので 2027 年度に全体の見直しをします。		